

1. 評価結果概要表

平成 21 年 1 月 8 日

【評価実施概要】

事業所番号	0 1 7 0 5 0 1 8 0 3		
法人名	三井ヘルスサービス株式会社		
事業所名	グループホーム あかり		
所在地	白石区栄通 1 6 丁目 6 - 1 6 (電 話) 011-850-2077		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成20年12月11日	評価確定日	平成21年1月8日

【情報提供票より】 (19年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14 年 12 月 16 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 9人, 非常勤 1人, 常勤換算 8.2人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての ～ 2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円		
その他の経費(月額)	20,000 円		
敷 金	○有 (65,000 円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有 (65,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	○有 (退居時 / 無
食材料費	朝食	250 円	昼食 300 円
	夕食	350 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 ( 11月6日現在 )

利用者人数	9 名	男性 3 名	女性 6 名
要介護 1	1 名	要介護 2	2 名
要介護 3	3 名	要介護 4	2 名
要介護 5	1 名	要支援 2	名
年齢	平均 86.2 歳	最低 80 歳	最高 98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	記念塔病院・やまうら内科クリニック・札幌トロイカ病院・札幌デジタルクリニック
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所近くには公園サイクリングロードがあり季節の移ろいを感じることもできる恵まれた環境にある。ホーム長、管理者、職員は、利用者との間には深い信頼関係が構築されており、ゆったりと穏やかな暮らしが確保されている。階下はデイサービスセンターになっていて、事業所は1ユニットで職員の異動もなく、看護師であるホーム長、管理者を中心にしっかりとチームワークが取れていて、看取りの経験もある。運営推進会議も定着した運営がなされ、地域の中で利用者一人ひとりを大切にしたいケアが確保された暖かい雰囲気の仕事所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の課題であった市町村との連携や災害対策については、市や行政との連携も取れており、地域の支援体制も話し合われて、地域密着の運営がなされている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は職員全員で行なっており、外部評価についても表出された課題は職員間で話し合い、利用者のケアの質向上に反映させている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2ヶ月毎に開催し、事業所の運営状況等を報告し、活発な意見交換を行ない利用者の生活の質の向上に繋げている。又、運営推進会議を通して、地域との交流も円滑に行なわれ、法人代表は地域の要望に応じ、介護保険や認知症についての勉強会を実施している。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 毎月事業所の「あかりほのぼの通信」を発行し、利用者の暮らしぶりや行事写真を載せて家族に送付している。家族の来訪時や電話でも利用者の様子を詳しく報告している。事業所には意見箱を設置し、重要事項説明書には苦情相談窓口も明記している。
	重点項目④ 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 事業所と地域との交流は日常的に行われている。町内会から夏祭りの誘いがあって参加したり、事業所とデイサービスとの合同行事を町内会の回覧板で地域に参加を呼びかけたり、参加者100名位の盛会な時もある。子供の和太鼓、フラダンス等ボランティアの来訪もあり、利用者の生活の潤いになっている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で利用者一人ひとりを大切にしたい暮らしが出来るよう事業所独自の理念をつくりあげ、玄関や事業所内の目の付き易い場所に掲示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティング時に職員全員で理念を唱和し、日々のケアサービスの実践に反映させている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は町内会に加入し、地域の一員として気軽に近隣の方々とも挨拶を交わし、地域の行事や催し物にも利用者の力量に応じて参加している。畑で出来た野菜を頂いたり差し上げたりして、事業所からも誘い地元の人々との交流を図っている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員は評価することの意義を理解し、全職員でミーティング時に話し合い、自己評価表をまとめている。自己評価、外部評価の課題は、事業所の運営に反映させている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に運営推進会議を開催し、事業所の活動状況、利用者の状況等を報告し、意見交換を行っている。表出された意見は事業所の運営に反映され、サービスの向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当課からの通知や情報を受け取り、事業所の運営報告の際には話し合いや連携を図っている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には利用者の暮らしぶりや健康状態を詳しく報告している。又定期的に電話連絡や手紙による報告も行なっている。事業所の「あかりほのぼの通信」のお便りはスナップ写真満載で発行し、家族に送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は家族の来訪時には声かけを心がけ、家族からの意向や不満、苦情も話し易いように努力している。重要事項説明書には苦情相談窓口も明示している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ここ3年間は職員の異動はないが、異動の時には職員全員で共通意識を持ち、利用者の不安や心配を取り除くよう配慮する体制づくりを話し合っている。実習生も受け入れているので、職員は利用者の心の動きに細心の注意を払うよう取り組んでいる。		


外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、職員の勤続年数や経験に応じて、外部の研修会に年3～4回参加するよう促して勤務調整を行なっている。研修後はレポートをまとめ、職員の勉強会で発表し、他の職員の育成にも役立てている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会議に出席し、同業者間の意見交換や交流を図っている。又職員の研修も行ない新たな発見もあり、ケアの質の向上に役立てる取り組みが行なわれている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前には本人、家族の事業所見学や話し合いを行ない、何度も来所して頂き事業所に馴染みながら安心した入居となるよう配慮している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者に人生の先輩として敬意をもって接し、料理の味付け、家庭菜園などを教えてもらったり一緒に作ったりしながら支えあう関係を築いている。昔のことを生き生きと話してくれる利用者とは喜怒哀楽を共に感じ過ごしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者一人ひとりの思いや意向を把握できるよう常に利用者の変化や表情、会話に細心の注意を払い受け止める努力をしている。職員間の申し送りも徹底し、利用者の意向に添えるように検討している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	職員は利用者の担当制を取り入れており、アセスメントを大切にして、ケアカンファレンスで検討し、家族、医師などの意見を反映させた介護計画を作成している。介護計画には家族の確認を頂き、捺印されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のケアカンファレンスで、生活記録を参照しながら話し合いを行なっている。更に3ヶ月ごとに見直しを行ない、現状に即した新たな計画を作成し、家族にも報告している。利用者の状態に変化があった時はその都度見直しを行なっている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じた、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所と併設のディサービスセンターとの共同行事や介護車を活用して利用者個々の外出支援を行なっている。家族との連絡も密に取り、臨機応変なサービス提供に取り組んでいる。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者のかかりつけ医の受診は定期的に行ない、適切な医療が受けられる支援に努めている。また歯科医の訪問診療も受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所は、利用者が重度化した場合や終末期に向けた指針を作成しており、利用者の状況に応じて早い段階から家族との話し合いの場を設けている。ホーム長が看護師であり、すでに看取りの経験もある。		
<b>Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを大切にし、さりげない声かけや対応に配慮した取り組みを行なっている。個人情報の保管・管理も徹底している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者のペースや意向に合わせた生活を大切にし、大まかな流れの中でその日の暮らし方を支援している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は、利用者の好みや希望に添った食事の内容を工夫し、利用者の力量に応じて下ごしらえなどを手伝ってもらいながら調理をし、同じテーブルについて、楽しみながら食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に応じて随時入浴できる体制を整えており、最低でも週2～3回の入浴を支援している。勤務体制を調整し、同姓介助となるよう努力している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者の生活歴などから得意なこと好きなことを見い出すよう努め、利用者のレベルやペースに合った楽しみごとを支援している。一緒に作成した作品は居間に飾られている。嚥下体操、カラオケなど余暇活動を工夫し取り組んでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くにサイクリングロードがあり、自然豊かな環境で利用者の希望に応じて散歩、買物ドライブ、畑作りなど戸外に出る機会を支援している。敷地の中にあずま屋があり、お茶を飲んだりバーベキュー等も楽しんでいる。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	事業所では、鍵をかけることの弊害を理解し、日中玄関に鍵をかけていない。非常階段のドアには、ガラス戸なので利用者の安全確保のため施錠しているがセンサーをつけて人の気配を感知するよう工夫している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回定期的に防災避難訓練を行っている。また日中ではあるが避難時間を測ったりもしている。町内会長をはじめ近隣住民とも話し合い、協力体制が築かれている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、食事量のチェックをしている。栄養バランスやカロリー等は、管理栄養士の指導を受け献立のアドバイスを頂き確認している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は明るく台所、風呂、トイレを囲んで居室があり、居室からも調理の匂いが感じられ、車椅子や手引き歩行も容易な広さの造りとなっている。三々五々職員と利用者が談笑し、笑い声も聞こえて、暖かなアットホームな雰囲気である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れた家具・調度品が持ち込まれ、写真や趣味の品が飾られていて、その人らしい居室となっている。仏壇を置いている人もいる。冬場は居室で濡れタオルをかけ、湿度を保つ配慮をしている。		

※  は、重点項目。